

# 海と陸の生き物があふれる「高松干潟」

伊勢湾奥部に位置する高松海岸には、朝明川河口とその右岸に約28ヘクタールの砂質の干潟が広がっています。まわりは工業地帯に囲まれながら、今も自然に近い状態で残る「高松干潟」は、多様な生き物であふれています。



▲高松海岸の全長 500m の海岸線には 5～6月、ハマヒルガオの群落が一斉に花を咲かせます。

## 北勢地域に残る 貴重な自然海岸の干潟

かつて川越町から四日市市北部にかけては、長く広い海岸が続いていました。天カ<sup>あまが</sup>須賀<sup>すか</sup>、富田浜、霞ヶ浦、午起地区<sup>うまおし</sup>には、白砂青松といわれる海岸線が続き、東海地方でも有名な海水浴場として知られていたそうです。またハマグリやシシビ(イソシジミ)などの漁も盛んで、海苔の養殖はこの地域の代表的な産業として栄え、人々の暮らしと深い結びつきをもってきました。

しかし、昭和34年の伊勢湾台風で大きな被害を受けたのち、海岸線には堤防が築かれ、さらに埋立地の造成により、この一帯は工業地帯として生まれ変わっています。

そのなかで今も残っているのが、地元から「諸戸の海岸」と呼ばれ親しまれてきた川越町

### 干潟とは？

海では潮の満ち引きによって、ほぼ一日に二回、干潮と満潮が繰り返されています。その潮が引いたときに「干し上がる場所」を「干潟」と呼びます。干潟は川から運ばれた土砂が堆積し、長い年月をかけて形成されてきた場所です。



干潟には河口付近にできる「河口干潟」のほかに「前浜干潟」、「潟湖干潟」とよばれるものがあり、それぞれの地形や環境によって干潟が作られます。

お話を伺った人



### 高松干潟を 守ろう会

代表  
みずたに  
水谷 いずみ さん

海岸線と干潟の保全を行うことを目的として、平成13年に発足しました。現在、メンバーは15名で、自然保護から海岸清掃や海岸線調査などの活動をしています。また干潟の大切さを伝えるため、自然観察会や地域の学校への出前授業なども行っています。

高松干潟を守ろう会 ホームページ  
<http://takamatuhigata-kawagoe.jimdo.com/>

の高松海岸です。現在も潮干狩りスポットとして、人々の憩いの場として、多くの人がこの高松海岸の干潟を訪れます。そこで今回は「高松干潟を守ろう会」の水谷さんにお話を伺いました。